

青年期の心理的特徴

2014 年本試

問 8 下線部 h に関して、二つの欲求が対立し選択に迷う状況を 葛藤^{かつとう} という。葛藤状況に関する説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

8

- ① レヴィンは、一つの対象に接近したい欲求と回避したい欲求を同時に抱く状況において、どちらを選択するか葛藤する人間を境界人と表現した。
- ② シュプランガーは、青年期には内向型の価値と外向型の価値とが葛藤を起こし、その解決を通して自己形成に至るとする、性格の類型論を提起した。
- ③ 防衛機制とは、葛藤や欲求不満に対する心の反応で、抑圧や退行などが原因となって心の安定が乱され、不安や緊張に陥ることである。
- ④ ヤマアラシのジレンマとは、相手に接近したい気持ちと、お互いが傷つくことへの恐れとが葛藤を起こし、適度な距離を見いだしにくい状況を表す。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 8	8	④	2

2012 年追試

問 2 友人関係に関連して、次の文章を読み、現代日本の青年が抱えるヤマアラシのジレンマに合致する例として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

2

ショーペンハウアーやフロイト、精神分析医のベラックによって取り上げられたヤマアラシのジレンマは、親密な者同士がさらに近づこうとすると逆に傷つけ合ってしまうという「近づきたいが離れたい」という葛藤^{かっとう}であった。しかし、友人関係の希薄化が指摘される日本の青年が抱えるヤマアラシのジレンマは、「近づきたいが近づきすぎたくない」、「離れたいが離れすぎたくない」という二重の葛藤から成り、この二重のジレンマは相手との関係が深化する前の段階で生じている。青年たちは、相手と親密な関係を形成したいと願う一方で、互いに傷つけ合うことを恐れるあまり、関わりが深まる前から、自己の内部だけで適度な心理的距離を模索していると言える。

(藤井恭子「青年期の友人関係における山アラシ・ジレンマの分析」

『教育心理学研究』(2001年)により作成)

- ① 知り合って間もない相手と、つまらないことで口論になった。関係修復は難しいと思わないし、自分でもそうしたい。ただ、相手から謝ってきたらすぐに受け入れるつもりだが、自分から先に謝るつもりはない。
- ② 同じクラスになってよく話すようになった人がある。その人とは考え方も似ていて理解し合えると思っているので、自分の悩みを相談したいが、それを打ち明けて、相手から面倒に思われるのは避けたい。
- ③ クラスが一緒でも全員と気が合うわけではないので、大半のクラスメイトとは、つかず離れずの関係になりがちだ。それはそれで、場の空気を読んだり、相手の反応を探ったりしなくてよいので、かえって気が楽だ。
- ④ 同じ部活動で意気投合した気の置けない友人がいる。多少厳しいことでも、気兼ねなく言い合える仲は今後も大切にしたいが、ときどき、親しさゆえの相手の無遠慮な言い方にひどく傷つけられることがある。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第1問	問2	2	②	3

2009 年追試

問 3 心理学者のレヴィンジャーたちは、対人関係の段階を、関係の深さに応じて、無接触の段階(お互いに接触もなく、認知していない)から、深い相互作用の段階(相互の関係は確固たるものとなり、共通したコミュニケーション行動がとられる)までの六つの段階に分類している。次の A～D は、それらのうち四つの段階の対人関係の深さを説明したものである。人間関係が深まっていく順序として最も適当なものを、下の①～⑤のうちから一つ選べ。

3

- A お互いのことを知っているが、形式的なコミュニケーションにとどまっている。
- B 相手は自分のことを知らないが、話しかければ対応してくれると期待している。
- C お互いの態度や価値観などが類似し、共通の規範を形成するようになる。
- D 相手に対する親密感が増し、自分の気持ちを次第に打ち明けるようになる。

- ① D → B → A → C
- ② B → D → A → C
- ③ A → C → B → D
- ④ A → D → C → B
- ⑤ B → A → D → C

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 3	3	⑤	3

2008 年追試

問 3 孤独感を下の①～④の四類型に分ける考え方がある。これに基づくと、次の文章で描かれている人物はどのようなタイプの孤独感を感じていると考えられるか。最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 3

A君は、恵まれた環境に育った17歳の高校生である。高校までは世間の流れに従って進学してきたが、卒業を目前にして、高校を卒業するということが自分にとって何の意味をもつか分からなくなり、いらだっている。親は親の価値観からA君の人生を方向づけようとしているように感じられ、「お前のため」という親の言葉も常識の押しつけとしか思えない。周りの人が何の疑問ももたずにやっていることが、A君には不可解に思え、自分の考えを明確な言葉にして表現しようと苦闘するが、それをうまく伝えられず、つい自暴自棄へと走る。しかし、そんなA君も大人社会から見ればわけの分からない反抗者でしかない。

- ① 身近な人と理解・共感し合えていると考えるが、自分の個別性に気づいていない。
- ② 身近な人と理解・共感し合えていないと考え、かつ自分の個別性に気づいていない。
- ③ 身近な人と理解・共感し合えていないと考えるが、自分の個別性に気づいている。
- ④ 身近な人と理解・共感し合えていると考え、かつ自分の個別性に気づいている。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第1問	問3	3	③	3

2007 年本試

問3 相容れない動機の板挟みとなるとき悩みが生じることがある。次の動機の対立ア～エと、具体例A～Dとの組合せとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

3

- ア 自立 対 依存
- イ 親密 対 孤独
- ウ 協力 対 競争
- エ 衝動的表出 対 道徳的基準

- A 親友の身の上話を聞いているうちについ感情的になり、途中で席を立ってしまったが、終わりまで冷静に聞く必要があったと後から考え、悩む。
- B 昼休みに友人の話の輪に加わり仲良くしたいと思うが、一人で好きな本を読みながらリラックスしたいとも思い、悩む。
- C 難しい数学の問題が宿題に出て、独力で解くのが望ましいとは思いますが、勉強ができる友人に答えを聞く方が簡単であるとも思い、悩む。
- D テストの直前に、自分が苦勞してまとめたノートを見せてくれとライバル関係にある友人に頼まれて、断ろうかどうかを考え、悩む。

- ① ア－C イ－A ウ－D エ－B
- ② ア－B イ－A ウ－D エ－C
- ③ ア－D イ－B ウ－C エ－A
- ④ ア－C イ－B ウ－D エ－A

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第1問	問3	3	④	3